

令和7（2025）年度第1回名張市快適環境審議会会議録（概要）

1. 開催日時 令和7年12月1日（月） 午後2時から3時30分まで
2. 開催場所 名張市役所2階 庁議室
3. 出席者
委員 会長 朴 恵淑、副会長 益満 亮
安井 宣仁、林 貴宏、古市 哲也、廣岡 茂斉、福廣 勝介
事務局 環境対策室 恵村 和生（室長）、上角 健将、神谷 仁美、出口 佳奈
傍聴者 なし

4. 内容

1. 環境対策室長あいさつ
2. 委員紹介
3. 議事

（1）会長及び副会長の選任

〔会長に朴恵淑委員、副会長に益満亮委員就任〕

（2）次期なばり快適環境プランについて

【事務局（環境対策室長より説明及び提案）】

前回の審議会において、今回の審議会からプランの見直しをお願いしていく予定とお伝えしておりました。ついては、今夏より、今回の審議会にお諮りする新計画のたたき台の作成に向け、各部署の職員からなる庁内作業部会を設置し、改定作業を開始したところでありました。その作業部会におきまして、種々意見が出され、プランの計画期間の見直しに向けて、舵を切る形となったところです。

本市の環境基本計画（なばり快適環境プラン）は、総合計画の下位計画として位置付けるとともに、SDGsの理念に沿った計画として策定・運用してきました。現行プランの計画期間は令和8年度までであり、SDGsの目標年次（2030年）や本市総合計画の見直し時期との間に終期のズレが生じている中で、作業部会におきましても、SDGsや総合計画との整合、2030年目標や2050年カーボンニュートラルとの関係を踏まえ、計画期間や見直しの在り方を検討すべきとの意見が出されています。

こうした状況を踏まえ、新たな快適環境プランの策定に当たっては、総合計画及びSDGsの計画期間・終期と整合するよう、現行計画の計画期間を見直す「改定（期間の変更）」を行い、期間を合わせた形で検討を進めていきます。具体的には、2030年までの期間整合や総合計画改定スケジュールなど、関係部局と調整の上、案を整理していきたいと考えております。

なお、本計画の進捗については例年、所管からの実績報告を取りまとめ、附属機関である快適環境審議会へ報告しており、期間見直し後も同様に評価・点検の枠組みを維持していく

予定です。

来年度以降、総合計画の改定作業と合わせた形で、計画期間の整合方針（例：2030年までの延伸・中間見直し、総合計画改定後の本格改定時期の設定）をお示しし、改定案を取りまとめて参りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

⇒委員から特に意見なし

（３）第三次なばり快適環境プラン実行計画令和6年度成果報告について

〔事務局より（資料）第三次なばり快適環境プラン【R6 達成状況・実施報告書】の説明〕

【意見等】

○委員

施策項目（4-1-2-1）ごみの適正な排出のところで、不適正排出物の指摘シール貼付件数を6,000件以下という目標にしているが、実際には11,000件もあるということは、ルール外のよくない出し方をしているという実態だという理解でよろしいでしょうか。

●事務局

その通りです。

○委員

このデータを見て、名張市はトップランナーだと言っても過言ではないという部分が大きく2つ見えたかなと思います。

1つ目は、サーキュラーエコノミー。かつては、3R、4R、5Rなどいろいろ言われてきましたが、今は3R+R（リニューアブル）という形で、ある程度落ち着いてきました。このサーキュラーエコノミーの観点から見た時に、特に名張がすごいと思うのが施策項目（4-1-1-1）ごみの減量化と資源化です。一人一日当たりのごみの排出量が継続して減り続けているのですが、ここ2年間では、600g台を達成しています。三重県の29の市町と比べてみても、どの市町も頑張って700g台、中には800g台、900g台と増えてきている中で、600g台は名張市だけです。世界で見ても、ドイツや環境に力を入れている国での一人一日当たりのごみの排出量は580gくらいなので、もう少し頑張れば、名張市のごみの排出量は世界のトップランナーだと言ってもよいくらいの量だと思います。そこはこのまま継続しつつ、ごみを出さないことは大前提として、出ってしまったごみをどう資源化するのかというところを考えていけると、名張市はサーキュラーエコノミーのトップランナーと言えるのではないかと思います。

2つ目は、2050年までにカーボンニュートラルの実現に向けた取組についてです。施策項目（4-2-1-2）市の事務事業から排出する温室効果ガス対策といったところで、

市の事務事業においてもエコ通勤においても、CO₂を出さないように工夫されている。市民の皆さまの力だということはさることながら、事業所や行政などの産官学民のパートナーシップによってカーボンニュートラルの名張モデルができるのではないかと思います。また、環境に関わる我々としては、誇りを持ってこの機運をダウンさせないように、強みはさらに強く、弱みは補っていく、と控えめに言わずはっきりと良いものは良いと市民の皆さまにも伝えていって、さらにトップで行くんだということをアピールしていただければと思います。

○委員

施策項目（５－１－１－１）計画的な土地利用の推進と緑空間の保全のところ、すごく気になっていることがあるのですが、今年どこかの県で街路樹が折れたというニュースがあり、市内でも、毎年桜まつりをするところの桜の木がほとんど折れかかっている。また、青蓮寺や比奈知ダム周辺の桜の木もだいぶ弱っている。市にお金がないのはわかっているが、長期的な視点で少しずつ復活させるような動きができたらいいなと思います。

もう一つ、ここ数年、夏場の気温が上がって、少雨と亜熱帯化してきている。ダム周辺を見ると、通常の水位に比べて１０メートルくらい下がっていた。水のデータも取ってもらっていると思うが、水量が少なくなれば影響がすごく出ると思うので、それに対してどういう対策ができるのか、例えばCO₂削減であったり、SDGsの普及であったり、市民目線でも何かできることはないかとそういうふうに考えています。

○委員

名張駅の西口のところにも桜の木があり、老朽化が気になっていたのも、知り合いの樹木医さんに５本ほど見てもらったところ、内２本はもう切らないといけないと判断されたので、昨年、市の方に報告させてもらっています。ただ、難しいのは古くからある桜の木で、まちの人たちと馴染んでしまっているため、市もその地域からの承諾をいただかないとトラブルにもなりかねないので簡単には切れないということでした。まあ、単に危ないというだけでは切れないということも分かりますが、ぜひともよろしくお願いします。

●事務局

中央公園のところの桜の木やその周辺のところも危険だというご指摘をいただきましたので、担当の部署の方にも、情報の共有等をさせていただきたいと思っております。予算が厳しいという部分もあるかとは思いますが、その辺のところも計画的にできるような形で、やっていけたらと思います。

○委員

ぜひともよろしくお願いします。大雨だけでなく台風や何かで倒れてしまうと、二

次被害、三次被害とかも心配なので、桜の木だけでなく、他の樹木についてもあと何年くらいは大丈夫なのかを診断していただくのもよいと思います。

○委員

よく言われているのは、ソメイヨシノは50年から80年くらい。ただ、若いうちから上手に手当てをしていれば、弘前市の桜であれば150年程の寿命になっているらしいです。桜の木もそうですが、もう1つ気になってるのが、ケヤキ。ケヤキは丈夫で絶対に安全みたいに思われているが、夏に枝の先が折れて落ちてくることがよくある。さらに、その枝が直径で5センチ程もあり、下を歩いているときに落ちてきたりすると非常に危ない。大きくて丈夫な木ということで街路樹によく植えられているが生き物なので寿命があるということをよく理解しておかないといけないと思います。

○委員

1つ方法として、岡田財団が毎年桜の木について調査をして植え替えなどの支援を行っています。実は、三重大学も申請をして調査いただき、53本の樹木を無料で植え替えることができました。そういった調査のある際に、連絡しますので是非、手を挙げて申請いただければ、お金をかけずにできる可能性があると思うので、ぜひ検討してみてください。

○委員

施策項目（1－1－1－2）事業者による活動の推進のところ、三重県SDGs登録制度導入事業者数とありますが、こういうことをやったら登録できますよ、とかもう少し周知できないのかなと思いました。いつできた制度かは分かりませんが、今のタイミングでもう一度、改めてこういうことをやりませんかという風に周知できたらいいと思います。市で取り組まれているエコ通勤なども市だけでなく事業所も一緒に取り組みませんかという風にすればもっと大きなことにできるのではないかと思います。

○委員

今おっしゃっていただいた登録制度は推進パートナー登録制度のことかと思います。推進パートナー登録制度に登録されますと、三重県の間伐材でできた立派な盾が送られてきます。さらに、SDGsに向けた取組みを行っている事業者であるということを三重県がPRしてくれるので、企業価値の上昇につながり、企業の印象もより良くなると思います。

○委員

今、現状令和6年度の実績値がある中で、8年度の目標値が出てきていると思うのですが、例えば施策項目（4－2－1－2）のエコ通勤によるCO2削減量を見ると、確かにずっと上がってきてはいるが8年度のこの目標値は、2,000kg-CO2となっており、程遠

いものだと感じました。当初の数値目標というのが、何を目的として掲げられたものなのかが見えないと、ただ単にこう増えましたというだけでは、その数値がどうその目標に対して進んでいっているのかが分からず、数値が上がった下がったという議論だけになってしまう。その目標に対して、何が足りていなくて、もう少しこうした方が良いんじゃないとか、例えば足りてるものであれば、それを継続して、どのように今後推進していくのかをどこかのタイミングで整理するべきではないかなと思います。こう見ていると、確かに先ほどご説明があったように、数値が上がってきてたりとか、参加人数が増えてきてたりということは、素晴らしいことだとは思いますが、当初目標というのがあったはずで、それに対して現状がどうなのか、なかなか伸び悩んでいるのか、それとも本来の目標を少し掲げ過ぎていたのか、その辺りをもう少し見直して盛り込む方が、最終的なアウトプットという意味合いでは、成果が出て、良くなってきたんだと言えるのではないかなと思います。継続的に良くなってきていて、当初はこんなに悪かったものが目標を立てたことによって、達成ができなかったかもしれないけど、推進してきましたよとか、そういうまとまりがあると、最後すごく良いものになるのかなと思います。このまま継続的にやられていくのもすごく良いことだとは思いますが、市民の方が見たときに、例えば目標を高めに1万と掲げていて、実績が半分しかないとなれば、単純に数字だけ見て全然事業が進んでないんじゃないかと思われてしまうので、そういう面も考慮して、現状と目標の照らし合わせをしていった方が良いのではないかなと思います、ご意見させていただきました。

●事務局

成果指標の設定というのは非常に難しいところでございます。この夏に行いました作業部会でも、この計画で設定されている成果指標について、人口減少化においても人口上昇を前提とした成果指標を設定しているだとか、担当部局の方で長期に達成が困難で悩んでしまっているという状況があるものも設定されておりましたので、そういったところも含めて今後、この指標が妥当なのかどうかとかいうところを次期計画にあたっては、検討してもらわなければならないという課題と認識いたしております。

○委員

名張市の財政状況が非常に厳しい中で、予算的な措置が十分ではないということは実感しております。この進捗達成状況を見ても、もう少しお金があれば、何とかできるのかなというところもあるのではないかなと感じました。そういった中で、教育という分野においては、マンパワーで時間をかけずに、子どもたちへ環境問題や快適な生活、自然との共生などを学び伝えることができ、十分耕していける分野だと思いますので、そういったところにますます力を入れていかなければいけないなと思っています。

例えば、一般市民、子ども以外の大人の方に環境を大事にするとかエコの推進、SDGsの達成に向けてというところでの啓発活動というのは、努力は必要ですが比較的、お金をか

けずにできるところかなと考えます。役所の皆さんの負担になりすぎないよう何か良い案を捻り出していきながら、お金をかけずにやっていくという意味では、「啓発」というのは非常に重要な、今後の支えになるだろうと思いますので、意見をさせていただきました。

●事務局

名張市の予算が厳しい中で、市独自での事業となると、なかなか困難な状況ではございます。市では、カーボンニュートラル、ゼロカーボンシティ宣言をしたところでございますが、予算を要するものが多い中で、今できることとしては、できるだけお金をかけない形での他の国の制度等の啓発や、市民の皆さま、事業所の皆さま等へ働きかけをさせていただいて、効果的に事業を進めていきたいと思っています。

○委員

三重県では今、子育て支援にかなり力を入れているかと思うのですが、対象としているのは、小さい子どもだけなのか、それとも学校教育における小中学生程度の子どもまでなのかどちらでしょうか。そういったところを教えてもらえれば、名張市でも様々な環境教育を考える中で、良い名張モデルができるのではないかと思うのですが、県はどのようにお考えでしょうか。

○委員

高校生まで含めてはいると思うのですが、どちらかという子育てに至るまでのところに力を入れており、マッチングアプリを立ち上げたりして「少子化対策」に重きを置いているのかなと思います。

○委員

次の世代を担う若者への支援を是非とも知恵を絞って、できればいいなと思います。小学校や保育園、どこでもそうですが、そういう環境下で、自然環境のみならず周りとの人間関係なども上手くやっていかなければならないよという、生きていく術というものを小さい時から身に着けさせるということは、死ぬまで持つていく財産になると思うので、お金がないからこそ、こういうところを優先的に考えてもらえればと思います。

●事務局

子どももできるだけ予算をかけずに事業効果を出さなければいけないといったところで環境学習や広報に加え、Y o u T u b e での動画教材を作成するなどして、啓発等をさせていただいてるところでございます。また、ごみの減量化、お褒めいただきました名張市のごみの排出量が非常に少ないという点におきましては、特に可燃物の3割～4割を占めており、水分を多く含んでいる「生ごみ」の減量を重点的に取り組んでいるところです。他の市

町村であれば、生ごみ処理機の補助金があったりするのですが、名張市ではお金をかけず手軽にできるダンボールコンポストでの生ごみの堆肥化等の啓発をしております。他にも水切りダイエットといった生ごみの水切りを徹底してくださいという宣伝や、「3ないルール」の買いすぎない、作りすぎない、もったいないの徹底といったところを環境学習等で啓発させていただいており、それが一人1日当たりのごみの排出量が少ないという結果に結びつけられているのかなと思っておりますので、引き続きそういったところをお金のかからない方法で進めて参りたいと考えております。

○委員

小学校で行っている環境に関わる学習においても、地域との密接な繋がりがあまして、今年の夏には蛍の環境を守るために活躍している吉岡さんという方に来ていただいて、授業を受けた後、夜は実際に蛍を見に行ったりしました。また、4年生は地域を回ってごみ拾いをしたり、学校全体でも下校時にごみを回収して帰ろうなどの取組もありました。他にも自然環境に関わったり、米を作って売るところまでやろうとか、焼き芋をして全校生徒に振る舞うだとか、将来自分たちの暮らしをより豊かにするためのベースとなる学習を行っています。ただ、子育てをする親世代の方からすると、子育てが大変だったり、お金を稼ぐことが大変だったりとなかなか環境のことまで考えていられない世代の方もいらっしゃると思うので、そういった方に子育ての支援も含めて、環境を守っていこうという啓発活動を届くようにしたいと考えています。例えば、広報などに載っていても、子育て世代の人は、広報を読んでいる暇がないと思います。多分、届いて置いてはあるけれど、学校からの手紙も読む時間がないし、先ほどお話にあったY o u T u b e動画に関しても、そういうものが非常に効果的な手段だと思いながら聞かせてはいただきましたが、そのY o u T u b eを見てもらうための手段まで考えないと見てももらえない。啓発をするにしても、工夫が求められるのかなと思いました。学校の役割というのは、かなり大きいものだと思うので、今後また各学校の校長とも、今日の会議のことをお伝えしながら、より進んでいけるようにとは思っております。

○委員

ものすごく大事な話が、次から次へと出てきました。数値目標については、我々が策定した時期の背景から数年経って、いろいろな主体や考え方がどんどん変わってきている中で、良い方向に進んでいる、進むように取り組んでいるなどということの説明責任を果たす必要があるので、現状を鑑みながら活きた計画にしていただければと思います。また今日、委員の皆様から出たこの話がそのまま総合計画などに活かされれば、ありがたいなと思います。

○委員

樹木について、皆さんの話を聞いていて思うのですが、樹木が元気かどうかというのは数値化ができない。ただ、子どもや市民が地域に植えられた木に馴染んでいくことで、この木は朽ちてきていて危ないのではないかと気付いたり、そういう地域住民の目が監視やチェックに繋がる可能性があるのではないかと思います。それが環境教育にもなるし、子どもたちもそれを楽しみながらできるのではないかと思います。それと、最初に話した駅前の桜の木について、実は名張市に聞いたのですが、市が認定している樹木医さんはいないそうです。職員の方でなくてもいいのですが、この木はもう切った方がよい、切らなくてもよいなどの判断をできる人がいれば、市民の監視の目と併せて良い方向に進むのではないかと思います。

○委員

我社でも、目標数値を設定するのに、カーボンニュートラルを何年後かに、という思いがあり、達成するために今どれぐらいの二酸化炭素を出しているのかを算出しようとしていますが、かなり苦勞しています。正直、丸2年くらいこんなことをやっており、会社としては、効果の高いものから取り組んでいきたいと思っではいますが、数値化の仕方というのはすごく難しい。何かテーマを決めて、それに対して数値を半減する、というように考えていけないとなかなか取組が進まないのが困っています。

○委員

日本はとても真面目で数値を出すにしてもきちんとしています。そういった真面目にコツコツしていることが、いつか日の目を浴びる日が来ると思っていますし、そうじゃなければ本当の意味での地球は守れないんじゃないかと思います。そこを名張という決して大きな街ではないけれど、みんなが一丸となってやっていこうとする動きというのを是非とも発信していただきたい。発信の仕方についても、紙ベースがいいのかホームページがいいのかあらゆる方法を考え工夫して、名張が今何を目標しているのか、市民の皆さんにはどのような協力を求めているのかをしっかりと伝えていただきたい。そしてそれを今日の話し合いも含め、今後の名張市の総合計画にも反映していただければと思います。

●事務局

お話いただきましたことを担当部署の方にも共有させていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

○委員

最近では、環境問題は何か怖いものと思われがちですが、僕は楽しいものだと思っています。環境課題を楽しむというように理解すると面白いネタがいっぱいあると思いますし、子

どもたちも楽しみながら勉強ができると思います。

○委員

環境というのは答えがないんですよね。その都度その都度の時代背景とともに変わっていくものなので、2、3年前までは黒と言われていたものが、翌年には白になるみたいな話があって、それが結局、市民の皆さんにとっては、よく分からないものを感じる。環境というのは、すごく難しいことではあるんですけど、全部が全部、答えがあるわけではないので、やってみた上で何かできることがあったり、何かをしなきゃいけないということがその都度降ってくるものだと思います。先ほど申し上げた通り、目標値というのは、常日頃変わるものなので、今までだったら2,000、3,000というのが、良い数字だったのかもしれないが、実はよく見てみたら、そこまで高いものでなくてもよかったんだ、ということもあるので、それをある程度発信していく必要があるのかなと思います。環境を面倒くさいものだと思んが思うようになってしまえば、教育現場からもどんどん離れていってしまうので、私も学生とかに教えるときには、もう教科書はあつてないようなものだということを話しています。去年使っていた教科書が来年には使えなくなることだってよくあるし、この常識が常識じゃなくなることもあったりするんで、そういった意味では、答えがないということが正直なところですよ。ただ、それをやらないといずれ何かが起こってしまうということもあるので、バランスというか、難しいところではあると思うのですが、地域の皆さんに考えていただけると非常にありがたいなと思っています。

○委員

環境問題の一番の解決というか結果は、「美しい景色」だと思います。美しい景色なんてどうやって数値化するんだという話にもなりますが、やはり美しい景色が結論ではないかと思っています。

4. その他

●事務局 [次年度審議会の説明]

以上